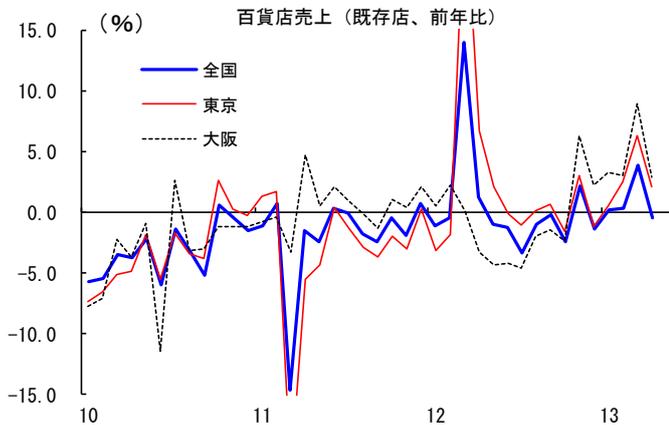


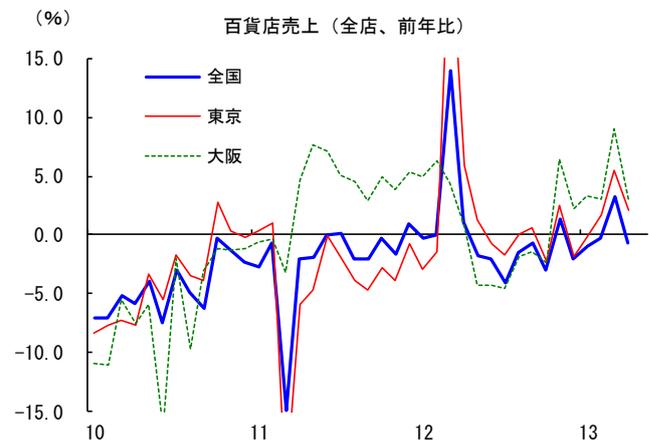
指標名：百貨店売上高(2013年4月)

発表日：2013年5月20日(月)

～天候要因で一服。高額品などは好調持続～

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 エコノミスト 星野 卓也  
TEL：03-5221-4526

(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」

## ○天候悪化で4月は一服

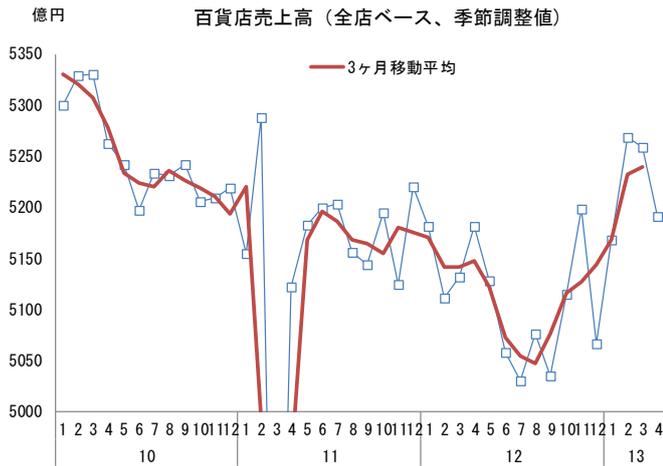
4月の百貨店売上高（全国）は、前年比▲0.5%（既存店ベース）と4ヶ月ぶりの減少となった。当社試算の季節調整値（全店ベース）でも、前月比▲1.3%と減少している。主因は天候の悪化であり、3月の好天から一転、4月は気温の低下に加え雨量も多かったことで、衣料品を中心に販売が伸び悩んだことが響いている。もっとも、高額品など好調が続いている品目も多く、回復そのものが腰折れしたわけではないだろう。

品目別にみると、衣料品（前年比▲3.1%）の減少が、売上全体の押し下げ要因となっている。天候不順を背景に、主力の春物衣料が苦戦したようだ。食料品は、同▲0.6%と2ヶ月ぶりのマイナスとなった。桜の開花が早まったことで、3月に花見関連の需要が前倒しされたことが影響したと考えられる。一方、身のまわり品（同+1.8%）や雑貨（同+5.1%）は、ともに6ヶ月連続のプラスと好調が続いた。中でも、高額消費の代表格である美術・宝飾・貴金属（同+18.8%）は、株高に連動する形で高い伸びが続いている。家具（同+7.2%）も、3ヶ月連続の増加と好調だ。また、円安を背景に外国人観光客が増加していることも、百貨店売上高の押し上げ要因となっているようだ。（調査対象の44店舗における外国人観光客の売上高は前年比+53.3%）

## ○先行きの個人消費は底堅く推移する見込み

このように、4月の百貨店売上高は天候不順を背景に回復が一服する形となった。だが、この結果をもって消費に悲観的になる必要はないだろう。今回の悪化は衣料品の減少によるものであり、天候要因でその多くが説明できるためだ。身のまわり品や雑貨などは好調が続いている点を踏まえれば、基調は強いと判断可能である。

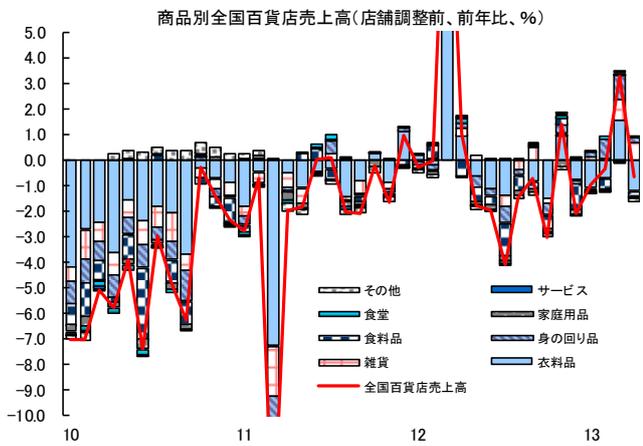
先行きの個人消費に関しては、株高などを背景とした消費者マインドの改善が引き続き追い風になることが予想される。また、現時点では回復感の乏しい雇用も、景気回復の影響が波及する形で夏ごろには持ち直しの動きが顕れるだろう。徐々に所得面での裏付けも得る形で、個人消費は底堅い推移が続くとみている。



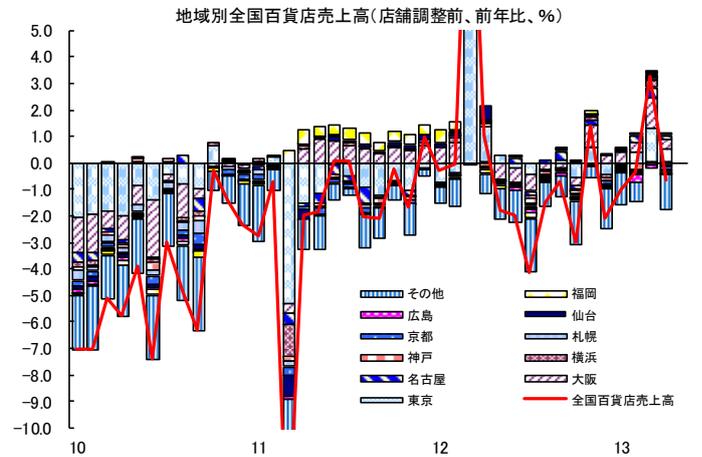
(出所) 日本百貨店協会資料より作成。季節調整は当社試算。



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」、日本経済新聞社「日本経済新聞」  
※美術・宝飾・貴金属は店舗調整前。



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」



(出所) 日本百貨店協会「全国百貨店地区別・商品別売上高」